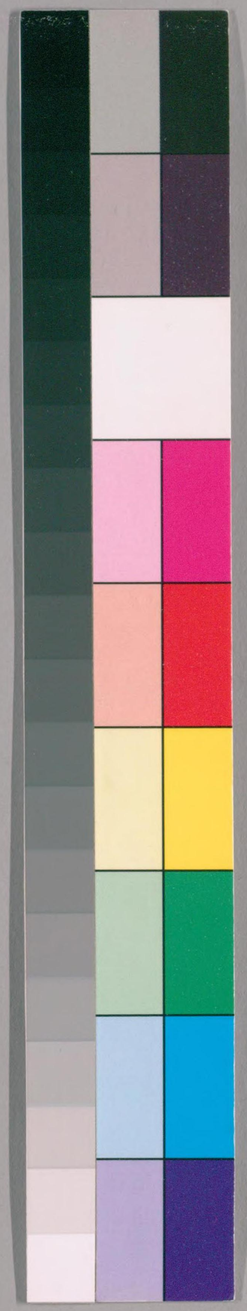
花伝抄

第二巻

857
146
取扱注意



国立国会図書館　タイトル『花伝抄 8巻』 請求記号 857-146

ガラス使用

857-146

調子は次第乃夏先調子といつて天地い
らぎうち此うち夏を調子にとる
また夏うち一分此秘調子を極めそれをもあつ
かふ事成うち心得へし此巻ふ
大形書ふる所乃第一
夏
五調子乃次第
一雙調といつて月出度調子也別春三
月乃調子に定方乃ふ也時ふ東也

国立国会図書館　タイトル『花伝抄 8巻』 請求記号 857-146
ガラス使用

人乃臆ふ名時ハ肝乃臆之裏色青さあり
味を酸あち形り木性と是を定眼ま通
調子あり

一黄鐘といつえ夏三月乃調子形り方かく、
ふ名時ハ南形り五臆ま名時ハ心乃臆之裏、
ろ赤一味を苦あり火性と是を定舌
ふ通ま洞ま多あり

一平調ふといつえ秋三月乃調子形り方かくに
名時い西也五臆ま名時を肺乃臆之裏色
白味をかゝき也金性と是を定鼻ま通る

一調子あり

一盤涉といつえ冬三月乃調子あり方かくに
名時を小也五臆ふ名時を腎乃臆也裏色
黒一味を醎也水性と是を定耳ふ通ま
洞ま多あり

一越といつえ土用乃調子形り方かくま名
時ハ中まうあり五臆ま名時ハ脾乃臆あり
裏を黄あり味をあまー土性と是を

定口小通る調子あり此去用乃間子小付て
ちくさほくの子細乃順ふおゐ〻ゟ
く吹奏乃末小書ゟ
かおゐ一調子あり
ゟ喜子細あり
一越ゟり出ル…鄭吟ゐり
一平調ゟり出ル八…勝絶下ニ用ゝ
一雙調ゟり出ル八…島鐘あり
一黄鐘ゟり出ル八…鳧鐘あり

一盤渉ゟり出ル八
十二天之調子ゟ
神仙上ニ調ゝ
ゟ支
一越 土 鄭吟 十二 平調 ㄈ 勝絶 二 下ニ調 三
雙調 四 島鐘 五 黄鐘 六 鳧鐘 七 盤渉 八
神仙 九 上無調 十
時之調子之ゟ支
子 呂 盤渉 湯 冬 空 呂律
丑 神仙 陰
寅 呂律 鳧鐘 湯

国立国会図書館　タイトル『花伝抄 8巻』 請求記号 857-146
ガラス使用

卯 呂律 雙調陰 春ヲ定
辰 律 盤鐘 陽
己 律 上無 陰
午 律 黄鐘 湯
未 呂 一越 陰
申 律呂 斷吟湯
酉 律呂 平 陰
戌 呂 下無 湯
亥 呂 勝絶 陰

一斷平 下羽 陰 黄 鳶 盤 神上

一越
赤 申 西 酉 戌 亥
方ヒ
南中 一越 去用 小 盤渉子 申夜半ヨリ
白 亥ヒ 己 辰 東 寅 丑 神仙
上無

カラヒ ヒルヨリ
白ヨリ 秋ヨリ
平 陰

羽陰 春ヨリ
青 スヒ
目 玄

鳶 盤 神

勝絶 六、五キ 冬ニ

国立国会図書館　タイトル『花伝抄 8巻』 請求記号 857-146
ガラス使用

右方〻五調子目此
年 辛酸苦五味五色 五時 五季 其躰
一雨ハ羽洞 一浪ハ 盤渉
一河ハ盤渉 一竹ハ 盤渉
一木ハ羽洞 一石ハ 盤渉
一鳥ハ盤渉 一鐘ハ 黄鐘
一雷電ハ盤渉 一黄ハ 平調
一風ハ平洞 一去ハ 一越洞
一雙洞ハ發心ニ 調子也

一黄鐘 徐行ニ 洞子ナリ
一平調 菩提ニ 洞子ナリ
一盤渉 侵盤ニ 洞子ナリ
一越 方便ニ 洞子ナリ
一五調子ヲ 宮商角徴羽 五音
引合スル意
一宮ハヲヨソ〻息ヲツク也 洞子ニアラス
一越ノ玄用ヲソチイルヲ洞子トイヘリ

国立国会図書館　タイトル『花伝抄 8巻』 請求記号 857-146
ガラス使用

一商人とゐあて息をつき少せき手洞や
始ふそちゆるあ
一角八口をあて息をつき少せき雙調や
喜ふそちゆまあり
一嚴八吉ふ息をあつめて調子ふあへ盤や
冬ふそちゆるあり
一羽八右乃人さうゆひあくく吟ふる時そふ
へあてひらけそ芙蓉ふり芽ふそちゆる
十二調子を吟ふる風それそ

と云あり口傳あり
一越そう二字に吟しあ事調子よある
勢吟しそ次第ふ向そ此心よあけくく
玄南調子を一斷手勝下羽島芙盤神
上と心はへ
一祇云ふ調子ふ変
呂八祇云ふいきせ生るいきと云傳ふう
れいあり入いきふ是を死いきと云あり

国立国会図書館　タイトル『花伝抄 8巻』 請求記号 857-146
ガラス使用

一羽伺黄鐘一越此二伺子呂乃者と定法云
小用あり
一羽調を上ニ伺子を又と下ニ伺子を毋と
天地陰陽和合の伺ゑと是を云羽伺かり
ひそめりるとよむやかるゆへ諸願成
就乃調ゑと名付
一五音さ〳〵つゝゑ〳〵事
一あいうへを下巻の中巻
一かきくけこ

一さ〳〵すせそ
一たちつてと
一なにぬねの
一はひふへほ
一まみむめも
一やいゆえよ
一らりるれろ
一わゐうゑを

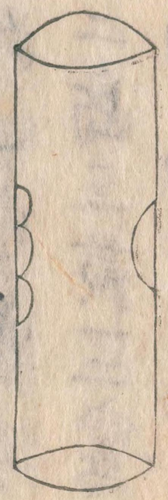
国立国会図書館　タイトル『花伝抄 8巻』 請求記号 857-146
ガラス使用

一唯門
あいうえを
かきくけこ
やいゆえよ

一脣
はひふへほ
まみむめも
わゐうゑを

一舌
さしすせそ
たちつてと
かにぬねの
らりるれろ

一四穴吹指乃図



国立国会図書館　タイトル『花伝抄 8巻』 請求記号 857-146
ガラス使用

三四二三新四宮峯平
一下二羽一二島三黄一三鳶
四盤一四神仙二四上

一越 ●●●○○
一新 ●●○●○
一平 ●●○○○
一勝 ●○●●○
一下 ●○●○●

一雙 ●○○○○
一島 ●○○○○
一黄 ○●●●●
一鳶 ○○○○○
一盤 ○○●●●
一神 ○●●●●
一上 ○●●●○

一座數かく詣の間子供安ふくハ

国立国会図書館　タイトル『花伝抄 8巻』 請求記号 857-146
ガラス使用

平調より論ず　双調子にあけそむるあり。

一廣間ふくハ双調より黄鐘にあけそむるあり。

教ありそ〻嘯ありくあるそ〻十番目かとに

そ〻ろんもそふあり。是

は當座乃座敷相應の調子を

時ゝ調子と云四季の調子を

乃取合口傳ふあり。

一春ハ　双調

一夏ハ　黄鐘

一秋ハ　平調さりあるひくき調子ふあれハ平調ハあれとも

双調ふうつて高き調子ふあれハ双調ふうつて高き調子ふあれハ

まりよ高き調子をそきらふあり。其子

細ハ秋ハ物あはれふかくあれハ調子たかくさハ

をんふ云時ハ物を悲ふ

義あり。

一冬ハそんさきふりさりあるひくき調子ふあれハ

国立国会図書館　タイトル『花伝抄 8巻』 請求記号 857-146

ガラス使用

調子おしそろく初うそやたんきを
謡いて座敷を相應せしめ声そつて勿
かりまつきこそれおいつ乃是を羽間ふ変
鐘かく渡出一座乃ゑにそんまきよ
物ゝ変習ありこかくみ〻ハ好地うひ間
みひくき事きらふあり是子細そみた
成ゝ風乃高そ間子たくまさほしく
吟声時雨乃声松うセまとうあり花
の声まそ間子なうきさ物ゝ是相應を

吟ずるに依ろく調子ひくきを変をきらふ
あり〻ゝ座敷の笛先そんまきをとい
ろく相ゝ間よおをすへし
一云用乃間子ハ一越あり同宮用を一越せ
位云用の門成とそまひの間子ハ遠へし
まひハ春あそ芸芸ありく変好あ
ゝ秋冬あそ季乃間子をうたふへし
子細ハ昔天王ハろんこ大王と申王あり法
子五人まつ海を一番ハ左急乃王子二番は

二帝の王子三番六三帝九王子と是を名付
四番八四帝の王子也五番八帝の王子と
申り皮法兄弟四人小也四番を一番と究分
たそふ五帝の王子小也とのむり申事御
伝く法母云石ふくにより五帝九王子
大将きんそのつるきをこ給ふかうの也
伝く七歳の法時法兄四人乃王子也皮御
をそこん為軍をこり給ふ時分九王子
ら天竺こうり川の水上ふかつ九也と

池有皮ふめつ九池乃中小城を拵給ひかう
城小籠り法軍をこりめくひ給ふ時皮四人
乃王子達さまく〳〵せめ九ゝかれ共
大将きんその劔をぬきかけさけ竟
むさそり給ふ四人の王子ハこめくく切
まけたまひ血の川七月七夜かうまきをそ
時大王ゝきんせんハうを御勘ほ小
たてく〳〵退九ゝなさあくはゝ帝九王子おゝ
王のむと分あ事ふ九たまふ長時春三月

ゟ十八日彼三月ゟ十八日秋三月ゟ
十八日ゟ三月ゟ十八日合七十二日を五帝の
王子ゟまひゟ物者の
そくそて又いかりを
日だいてい日をゟくこれをれをそれふ
作り出一云用七十二日にそくてまひゟ分
給へ分そ五帝ゟ王子ゟ御よろこひき
ゟ云時流ゟくそんせんなか
分ゟ云用乃うちゟまひと云日とくゟ

給ふ基子細ゟく云用ゟ内ゟそまひ乃
御子ゟ遠ふゟり又四季ゟ云用の調子の
ちゟゟも此義ゟりそそて此御代今
ゟそんゟゟり
一五調子吟する事ゟ
ゆへゟく吟する時ゟ
ゟきゟり
一そゟすゟ人ゟ事ゟ
一ひゟいゟひくゟそ

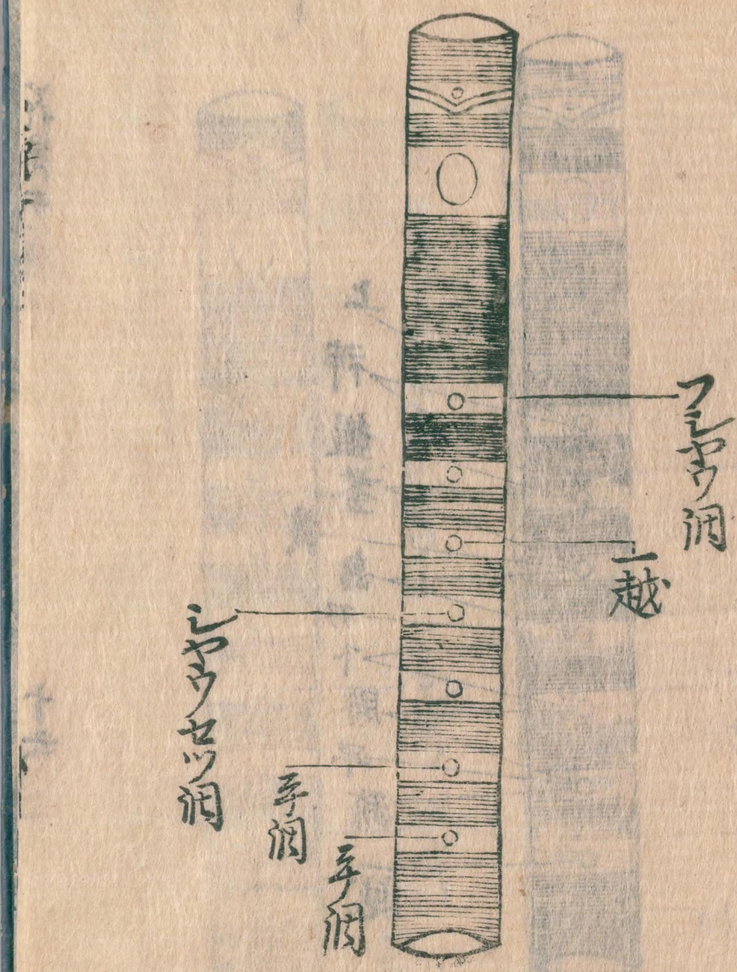
一年へひけを一越調あり常ノ拍子小物云声ハ好
調ありたゝくことかくのごとく
一ことまり此調子ハ調あり昔ゟ名人ゟ
を用つきたる人ゟゟゟを水性あれるる
まりよあを用ることゟゟゟ火ゟ道具ゟ学
ゟくみ調ゟ定ことゟゟゟ水性ゟ本性也
かるうゟへかようて家ゟ木をゟく学ハ
ハて本性ハちゟゟ此調子也又云羽調暮
乃調子ゟ羽ゟ云ハ空季ゟ此ゟ家

乃ゟゟ狂ゟ目出度調子ゟあり
一和云乃調ゟる弟一の調子一大変ゟり
前の中ゟ乃調ゟをうくゟ冷ゟ
ゟくゟ云出ゟへ中ゟうと調子をあ
てかうまるおさゟ此時ゟゟそゟ此調子
小ゟをゟ学ゟ
一ゟやうちゟゟひ行の学ゟ云ゟ
乃成るゟとゟあゟらいかゟゟたくいそ
いうゟゟくゟたゟ云ゟ吉いうゟあゟ

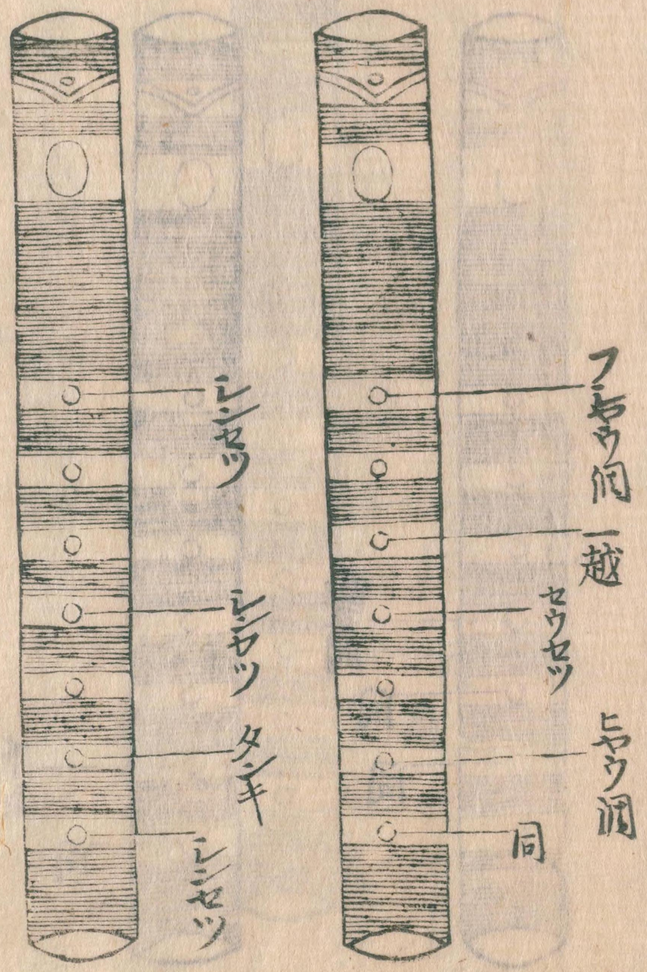
国立国会図書館　タイトル『花伝抄 8巻』 請求記号 857-146
ガラス使用

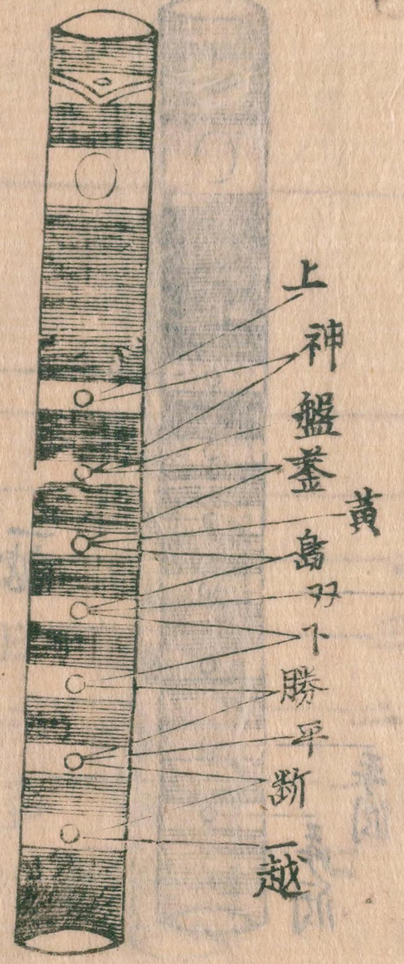
くやと云あひらひかう一調乃間よりうたくと云あひらひありのうへのあひらひ同前

一鼓脇かんたん江口松風うたくや

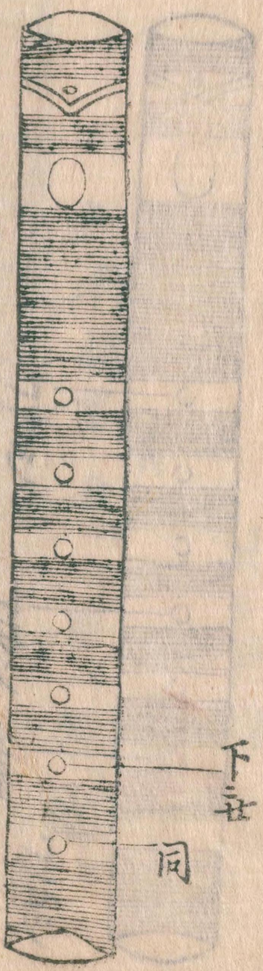


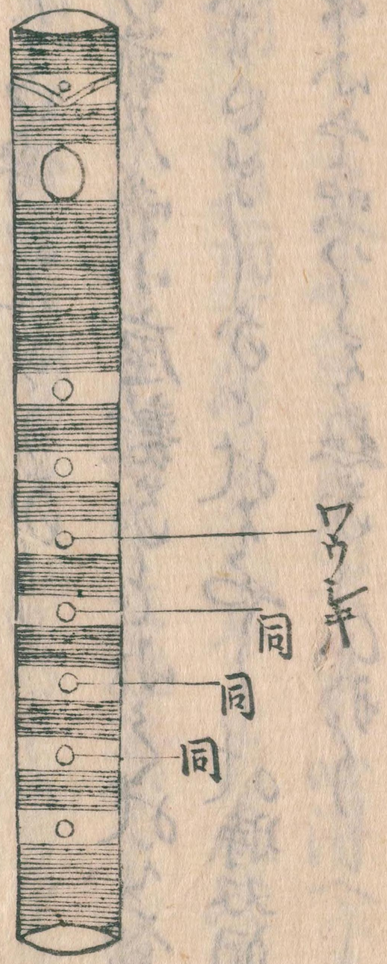
国立国会図書館　タイトル『花伝抄 8巻』 請求記号 857-146
ガラス使用





国立国会図書館　タイトル『花伝抄 8巻』 請求記号 857-146
ガラス使用





右笛九當大秋初メ之ものと是を六ツ二十二

国立国会図書館　タイトル『花伝抄 8巻』 請求記号 857-146
ガラス使用

調子吹合くらう名文呂律合別可
有さうあり笛小かきり書物かく合
点ゆきくらう大就中心まてありらく
口傳かんようあり
一序前乃囃小座數かとふくれ之動
又ちまかとれちやれ時双調れ
乗小て吹ハくる処あり
一ちこ海乃笛まりくる座付を吹へ
やうて座付と云義あり座付れ後常
乃能小てまりくちこ海れ座付れ前
ふそひしの処そ乃あり是秘書之ひ
くう家小さあひ也て心得へし
一調子ハ双調可物てちん鳥きを水れ調子か
ハそくいへさそ同を本性を女と用双雙
調ハ小作
一ちさ女方うち支へうこひう者ハ調子
乃事我う声出てそ我う調子をえらあ
きたセ海きありたる支乃やりかりをち

国立国会図書館　タイトル『花伝抄 8巻』 請求記号 857-146
ガラス使用

合曲相應なる小謡をうたひ出すべし

其うたひ初むる處乃拍子を聞て

用意の曲時分をさとり

又清聴乃人相應乃調子のあひよう

ようさてうたひ一小上まで

乃間をめて

よう〳〵ちと有て

子ちいと引一乃手

急くべし

一謡よりはじめ乃調子あんせつの

変化の事なんあいまいこと

ゆへ一相應よひ

一時乃間をゆすべし

乃息をかくべし

ありしへ其相應乃間

其間を小屋りて

座衆お應乃調子かしいへり

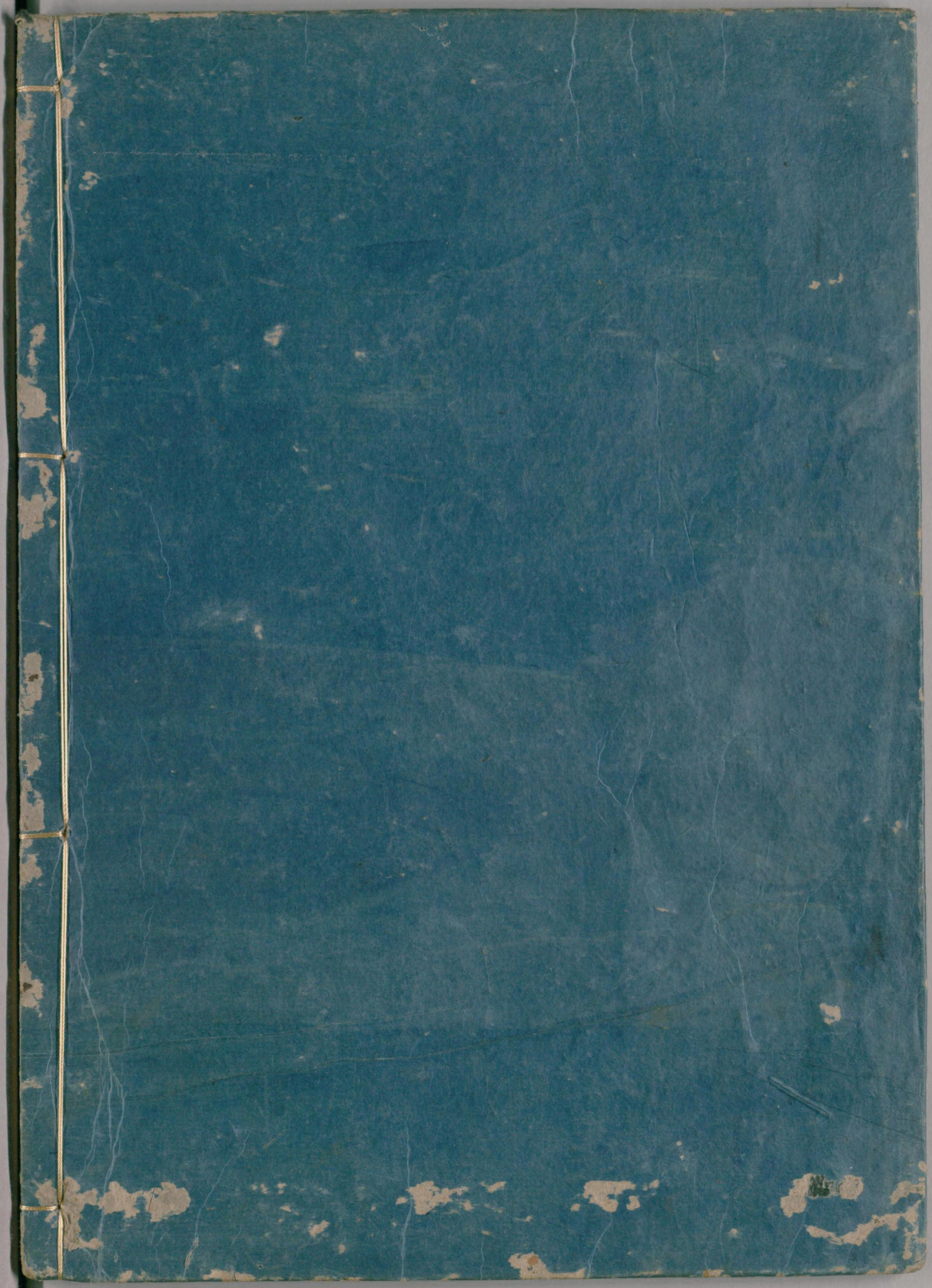
事ありさりおかゆへ

国立国会図書館　タイトル『花伝抄 8巻』　請求記号 857-146
ガラス使用

857
146

こゝろくやうて右ハそく吟すれ
ゝ通るそれあり
右間ゝのさゝ九十ヶ条書添そこ
そ天地乃間ゝ間ゝをうくけ諸
芸分此義乃肝要之間ゝ
ありそのくあつくひおのひゝ
十二間ゝハさゝたんれん稽古肝要へ
せゝのこ

国立国会図書館　タイトル『花伝抄 8巻』 請求記号 857-146
ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『花伝抄 8巻』 請求記号 857-146

ガラス使用